

活動報告



プカロンガン市沿岸部のバンデンガン村は、2000年から2021年の間に、毎年のように洪水の影響を受けています。2010年～2021年の洪水の主な原因は、地盤沈下、海面上昇、豪雨です。2019年には行政により防潮堤が建設され、堤防の内陸側は海面上昇による浸水は軽減しましたが、降雨による洪水は増加する傾向にあります。また、堤防の外側では、引き続き海からの浸水・高波の被害を受けています。

2021年度は、行政とコミュニティが水害に備える防災システムの構築支援を行いました。水害リスクの

特定、避難計画の策定、避難の管理・組織化等の連続ワークショップを実施しました。

洪水は生産活動・生計手段にも深刻な影響を与えています。洪水や海面上昇により、200ヘクタール以上の養殖場が被害を受け、養殖業が続けられなくなっています。このため、養殖場へのネットの設置、堤防の補修、養殖場周囲へのマングローブの植林などの復旧支援を行いました。さらに、持続可能な養殖の導入を始めることで、生計回復を目指しています。



2021年度活動

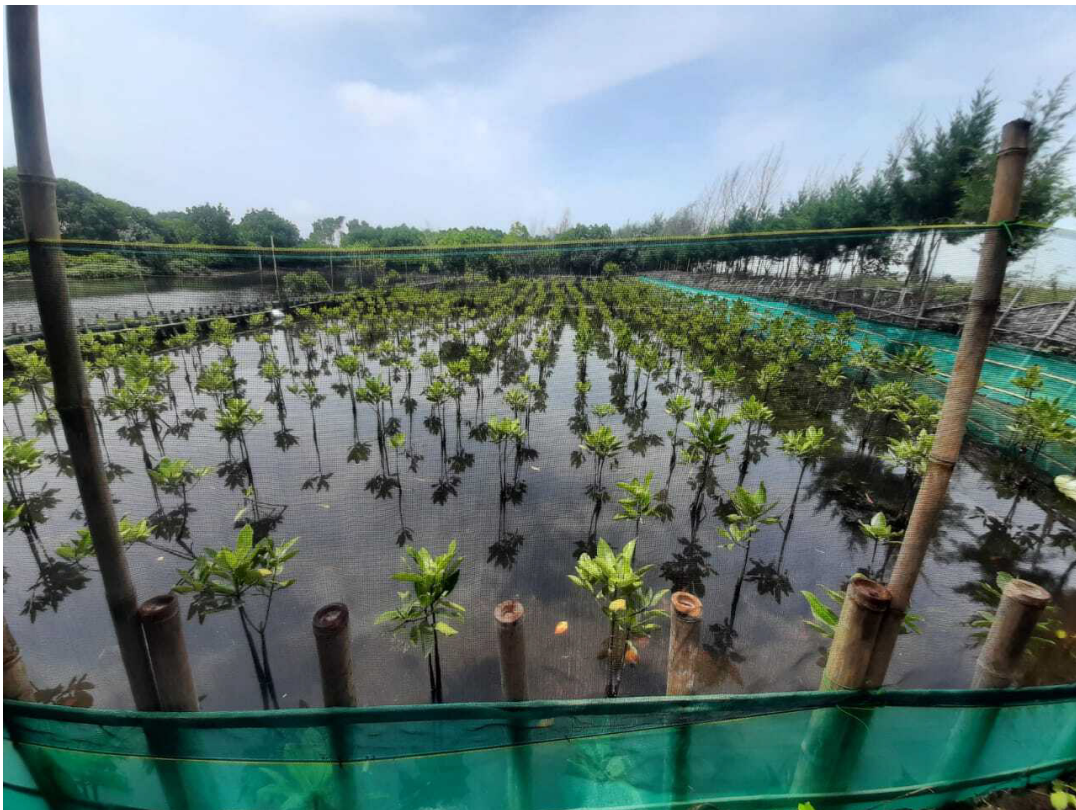
- 防災システムの構築
- 避難計画の策定
- 災害対策チームの設置
- 救助標識・機材の整備
- 持続可能な養殖業による生計回復
- 浸水で壊れた養殖場に網を設置、堤防の修復(17,610㎡)
- 持続可能な養殖業の試験生産開始

今後の活動計画（2022年度～）

- スモネット村の気候変動影響調査
- スモネット村の避難計画の策定
- バンドウンガン村防災研修、避難訓練
- 持続可能な養殖業の研究、パイロット事業の検証



マッドクラブの生産



マングローブにより養殖場の環境を改善

気候変動によるプカロンガンの海岸線の浸食は、2021年には2,231mに達しました。天然のマングローブ林が侵食されているため、海面上昇や高波による被害はますます深刻になる恐れがあります。沿岸被害を軽減するため、アピ・アピ村への防波堤の設置と5つの村へのマングローブ植林を行いました。これまでに設置した防波堤は全長100mとなります。地元の資材を使って低コストで効果的な防波堤を実現しています。防波堤の内側に植林したマングローブの苗木は高波の影響を受けることなく成長しています。

2021年度活動

- 5つの村(スモネット村、ウォノクルト クロン村、トラトゥバン村、アピ・アピ村、プチャカラン村)にマングローブ(松を含む)30,000本を植林。
- マングローブの活着率は97%。
- マングローブ保護のためアピ・アピ村の海岸に45mの防波堤を設置。

今後の活動(2022年度～)

- マングローブ、海岸林の植林、メンテナンス
- 防波堤の設置、メンテナンス
- 若者、子供たちへのマングローブキャンペーン



アピ・アピ村沿岸への防波堤の設置



マングローブの植林



海岸林(松)の植林